4. RI venography の検討
――下肢静脈造影との比較――

尾崎　裕　長谷川　弘　中西　淳
京極　伸介　住　幸治　片山　仁
（順天堂浦安病院・放）

［目的］Radionuclide venography (RNV) における描出静脈の同定と描出される頻度を調べ，Contrast venography (CNV) と比較して pitfall がないかを検討した．［対象・方法］過去5年間に両者が施行されていた22症例31下肢において，dynamic RNV では描出静脈を，static RNV では hot spot のある静脈を CNV と対比して同定した．［結果］dynamic RNV ではメインルートとなる静脈の描出は良好であったが，腓腹静脈や大腿深静脈などサブルートの描出率が CNV にくらべ低かった．下腿の深部静脈の描出も CNV では3本とも描出されていることが多かったのに比べ，腓骨静脈1本のみのことが多かった．一方，static RNV では dynamic RNV で描出されなかった静脈にも hot spot が多く見られた．［考察］RNV では薬液の総投与量が CNV にくらべ少ないため，薬剤分布がより流れやすい1本のルートに偏ることが懸念されたが，dynamic RNV で描出されない (描出が淡く同定できない) 静脈にも薬剤は分布しており，dynamic と static RNV を組み合わせることにより検査の精度は保たれると思われた．また，RI 投与法の工夫も試みるべきと思われた．

5. 血中アセチルコリンレセプター抗体測定および甲状腺疾患における検討

王　敵　佐藤　龍次　伴　良雄
原　秀雄　長倉　穂積　杉田　江里
伴　良行　谷山　松雄　（昭和大・三内）

血中アセチルコリンレセプター抗体 (AChRAb) 測定キットの検討．対象は健常者 (N) 13例，バセドウ病 (G) 23例，橋本病 (H) 31例，橋本病に重症筋無力症合併 (HMG) 3例，治療中の重症筋無力症 (MG) 5例．結果：本法の精度，再現性の CV は1.41，4.82%．本法は4～10°C で，1st インキュベーション時間は18時間以上，2nd インキュベーションは4～25°C で1～3時間で測定可能．4検体による希釈試験は直線性を示した．臨床的検討：N の AChRAb 値は，0.009～0.15 nmol/*l* に分布し，正常範囲は 0.20 nmol/*l* 以下．G 患者23例中 MG 合併の1例は 0.25 nmol/*l* と高値，H 患者31例中 IgG 高値の1例は 0.24 nmol/*l* と高値を示し，HMG 合併の3例は高値，MG 患者は正常から高値に分布した．AChRAb と血中 FT_3 FT_4 TSH との相関はなかった．結論：MG に G 病合併や H 病合併する頻度はいずれも5%前後と報告されており，これらの病態把握や治療に本抗体測定は臨床的に有用性があるものと考えられた．

6. 実用的な核医学診断報告書作成システムの試作と応用

行広　雅士　井上登美夫　遠藤　啓吾
（群馬大・核）
滝沢　勝右　（総合太田病院・RI）
佐々木康人　（東大・放）

核医学診断における報告書作成システムを試作したのでその実用性と将来における応用性について紹介する．簡単かつ効率的に診断報告書を作成することを目的として，次のような特徴を備えている．1. 検査台帳による一括管理化により基本情報の入力が容易，2. ひな形登録と参照機能により入力操作が簡略，3. 症例の検索が容易，4. ISDN 回線を利用したネットワーク化により遠隔診断への応用が可能．また，本システムはマッキントッシュ・コンピュータを使いウィンドウ形式で操作するので誰でも比較的短期間に容易に操作可能である．こういったことからも本システムが報告書作成業務上有効に利用できると考えられる．

7. ^{201}Tl 腫瘍シンチグラフィによる画像ガイド下経皮肺生検の部位選択

山田　晴耕　町田喜久雄　本田　憲業
間宮　敏雄　高橋　卓　細野　眞
釜野　剛　鹿島田明夫　清水　裕次
長田　久人　豊田　肇　岩瀬　哲
金田　篤志　（埼玉医大総合医療セ・放）

肺病変の存在診断は単純 X 線写真や CT などで行われているが，しばしば質的診断には至らず，生検

Presented by Medical*Online